

複合経営の安定化と担い手を核とした地域農業の振興

～ A.N.M (A)新しい(N)西美唄を(M)盛り上げよう ～

課題番号5

対象：美唄市西美唄地域（19戸）

1 活動の背景

西美唄地域の概要

水稻、小麦、大豆が主体に複合経営
経営規模：19.2ha/戸
経営主年齢：平均55歳（令和4年）
米麦営農組合（共同）：
西美唄米麦、元村米麦、アグリ山形

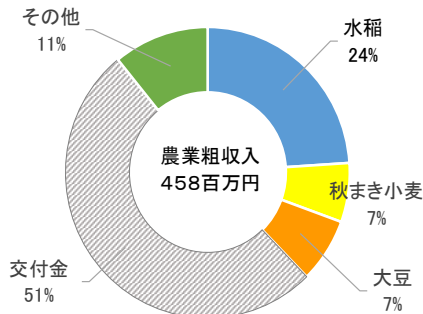
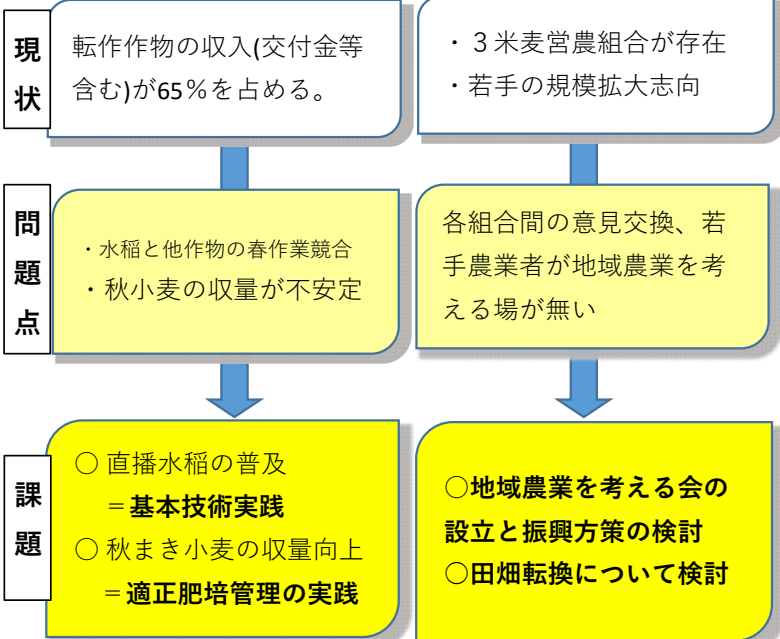


図1 R4年西美唄地域の農業粗収入



2 活動の経過

(1) 推進事項：直播水稻基本技術の実践

🔑 収量確保に大きく影響する苗立本数および穂数を確保する技術と除草技術の導入を提案

苗立率向上にむけた碎土率調査



苗立状況を地域で共有



タイムリーな栽培技術を発信



(2) 推進事項：秋まき小麦の適正肥培管理の実践

🔑 栽培暦と重点管理項目チェックシートを作成し、生育に応じた栽培管理に向け情報発信

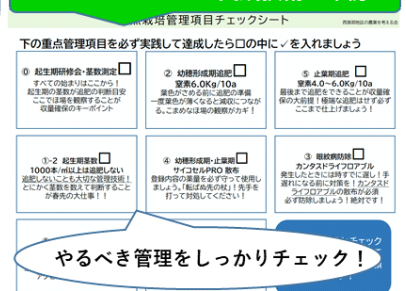
起生期研修会～全員で茎数調査・研修



生育に応じた肥培管理にむけた情報提供



チェックシートで実践技術を確認



(3) 推進事項：担い手による地域農業の振興

「田畑輪換体系でのほ場管理手引き」（以下ほ場管理手引き）について検討

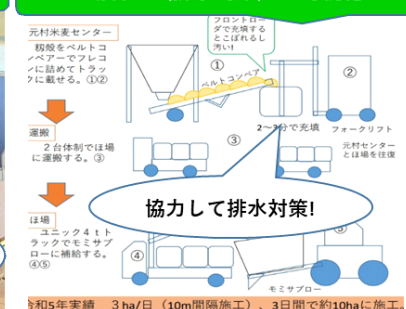
田畑輪換について視察



ほ場管理について検討



ほ場管理（排水対策）を可視化



3 成果の具体的内容

(1) 直播水稻基本技術の実践

基本技術実践による適正穂数の確保
現況 4 戸

令和5年実績 4 戸（目標達成率 57%）

収量 600kg/10a 達成農家
10 戸

直播水稻基本技術の実践状況（12 戸）

基本技術実施項目		A	B	C	D	E	H	I	K	L	N	O	Q
均平	有無	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
は種前後の鎮圧	有無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
は種量	kg/10a	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
砕土率	%	○	△	-	○	○	○	○	○	△	-	△	○
生育調査													
苗立本数	本/㎡	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	△	○
穂数	本/㎡	◎	◎	△	◎	△	△	△	◎	△	△	△	△
収量	600kg/10a	-	△	-	◎	○	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎

※砕土率：20mm未満土塊×60%未満、△60～69%、○70%以上

※は種量：10～12kg/10a

※は種日：5月13日まで

※苗立本数（本/㎡）

○：150～250 △：～150

※穂数（本/㎡）

◎：700～900 ○：900～1,000 △：～700

※収量

◎：106%～ ○：95～105% △：～94%

※A氏、C氏はイネWCSの作付により、収量調査は中止

(2) 秋まき小麦の適正肥培管理

重点項目実施農家
現況 4 戸

令和5年実績 12 戸
（目標達成率 150%）

J A 平均収量以上農家
9 戸

茎数に応じた施肥技術の実践戸数（13 戸）

具体的推進事項および穂数と収量	A	G	H	I	J	K	M	N	O	P	Q	R	S
重点栽培管理項目 *1													
起生期茎数の把握	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
起生期茎数に基づく追肥の判断	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
幼穂形成期の適期適量追肥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
眼紋病の防除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生育に応じた幼穂形成期止葉期の植調剤散布	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
止葉期の適期適量追肥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発生状況に応じた赤さび病の適期防除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
穂数 *2	○	○	多	○	○	多	少	○	○	○	○	○	○
収量 *3 (JA 平均対比)	◎	▽	◎	◎	▽	◎	○	▽	◎	◎	◎	▽	○

*1 重点栽培管理項目。○：実施、適正 -：未実施、未達成

*2 穂数の評価方法。目標（600～750本/㎡）に対し、○：適正 少：少ない 多：多い

*3 収量の評価方法。JA 平均に対し、◎：106%～ ○：95～105% ▽：～94%

(3) 担い手による地域農業の振興

「西美町の農業を考える会」
田畑輪換体系でのほ場管理手引き
作成検討会の開催 現況 0 回

令和5年実績 3 回
（達成率 150%）



図2 ほ場管理の手引き

図3 有材心土破碎は有効な排水対策

4 今後の課題と対応

(1) 直播水稻の安定多収に向けた技術改善、定着への支援を継続する。

(2) 「ほ場管理の手引き」増補・活用、若手農業者への栽培技術継承に向けた支援を行う。